

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 13	公益目的事業 17
主査名	中村文彦 東京大学大学院教授	
研究テーマ	アジア地域のスマートモビリティに関連するプロジェクト事例の動向分析とわが国への示唆に関する研究	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> <p>本研究では、アジア地域での MaaS や CASE に関連する新技術等いわゆるスマートモビリティ（ここでは高度な情報通信技術を援用した移動サービスおよびシステムの総称とする）の開発動向、データ基盤構築やデータ取引市場概念の導入も含めたデータ利活用にかかる検討状況および社会実装動向について、過去2年間の調査結果を活用し、さらに中国、シンガポール、タイ、ベトナム等での情報収集を深度化し、それらをもとに、日本の今後の道路交通政策のあり方を明らかにすることを目的とする。</p> <p>本年度では、モビリティ分野に絞って、特に技術水準が高まっているいくつかの国や地域での先進的な試みについて、新しい動きを正確に把握し、それらの動きの背景や今後の課題について十分に調査を行い、わが国への示唆を得ること、また、日本がそれぞれの国や地域での都市政策および道路交通政策の推進に際してどのような支援ができるかを明らかにする。</p> <p>昨年度までの活動を土台に、モビリティ分野に絞り、いくつかの国に絞った上での作業を推進する。本研究では、①CASE（特に自動運転、電動化、MaaS等）を中心としたスマートモビリティの動向について、引き続き、日本や世界各国の動きを概観し整理すること、②中国本土、タイ、ベトナム、シンガポールでのモビリティ分野の最新動向を、資料収集と現地専門家へのオンラインヒアリングを通して深めること、③それらをもとに、我が国の都市政策、道路交通政策のあり方、対象の国や地域の都市政策や道路交通政策へのわが国の支援の可能性を明らかにする。</p> <p>2023年8月7日17時～19時にオンラインで第1回研究会を開催し、昨年度プロジェクト報告会での報告、今年度の研究会の進め方を共有した上で、web of science で、type Article/language English/category transportation の条件のもと「Smart city」で検索した結果の共有、アジア開発銀行による「Reimagining the future transport across Asia and the Pacific 2022」の紹介等がなされた。</p> <b>下期へ向けて（課題等）：</b> <p>下期に研究会を3回開催し、第1回研究会で共有した文献リストをもとに作業分担した成果の共有、アジアスマートシティ会議でのモビリティ関連の議論の共有、スマートモビリティに関するアジア各地での調査事例、実証実験事例の情報共有、国内先進地の現地調査等をもとに、課題討論ととりまとめを行う予定である。</p>		